

# HP OpenView Internet Services

## OVIS 移行ホワイトペーパー



### 目次

本書の対象読者 .....	3
はじめに .....	3
OVIS Migration Pack のコンポーネント .....	3
SIS の使用法に関する推奨事項 .....	3
ライセンス情報 .....	4
ライセンス使用権 .....	4
ライセンスに関する重要項目 .....	4
OVIS 変換に含まれない、使用可能な BAC および SIS の要素 .....	4
BAC の概要 .....	5
OVIS ユーザーの利点 .....	5
ドキュメントライブラリ .....	5
BAC の導入前に考慮すべき事項 .....	7
プローブと構成の考慮事項 .....	7
OVIS Management Server .....	7
プローブの構成 .....	7
WebRecorder .....	7
Probe Builder プローブ .....	7
OVIS API を持つカスタムプローブ .....	7
スクリプトプローブ .....	7
負荷分散 .....	7
BPM および SIS の監視システム .....	7
手動による構成項目 .....	7
複数のプローブシステム .....	7
複数のモニターグループ .....	8
手動によるプローブの構成 .....	8
BAC サーバーとハードウェアの考慮事項 .....	8
ハードウェア .....	8
データベース SIS .....	8
データベース BAC .....	8
移行プロセスの概要 .....	9
OVIS プローブ構成変換ユーティリティ .....	11
はじめに .....	11
バージョンと国際化対応 .....	11

インストール .....	11
OVIS から SIS への変換手順 .....	12
追加手順 .....	13
ovis2sis 変換ユーティリティで変換できるプローブタイプ .....	15
手動による移行を必要とする OVIS プローブ .....	19
HTTP_TRANS を再記録する手順 .....	20
スケジュールラ項目 .....	21
OVIS のダウンタイムのスケジュール .....	21
OVIS プローブのスケジュール機能 .....	21
手動による移行を必要とする OVIS サーバーサイド機能 .....	21
OVIS 統合 .....	22
OVIS 測定データ .....	22
OVIS Troubleshooting Insight Package の機能 .....	22
付録A .....	24
BAC アーキテクチャ .....	24
BAC サーバー .....	24
BAC データコレクタ .....	24
展開アーキテクチャ .....	25
単一サーバーの BAC 展開 .....	25
2 台のサーバーの展開 .....	25
3 台のサーバーの展開 .....	26
5 台のサーバーの展開 .....	26
付録 B .....	27
OVOW との BAC BPM 警告の統合例 .....	27
付録 C .....	30
BPM または SIS への OVIS プローブのマッピング .....	30

## 本書の対象読者

OVIS ユーザー、ソフトウェア実装者、および Business Availability Center (BAC) への移行に関心のある人にとって、移行を成功させるために求められるさまざまな疑問や手法に焦点を当てた本文書が役立ちます。

本文書では、OVIS から Business Availability Center (BAC) への推奨される移行パスを示すとともに、OVIS の大半の機能を BAC 関連のコンポーネントに移行するための方法論、ソリューション、および利用可能なプロセスの概要を示します。妥当かつ可能である場合、本書ではこの移行によりユーザーに課せられる制限または追加作業についても明らかにします。

## はじめに

Hewlett-Packard (HP) では、2006 年の Mercury Interactive の買収により End User Monitoring (EUM) および Business Service Management (BSM) のための製品サービスを拡張したさまざまなテクノロジーを取得しました。HP は、Business Availability Center (BAC) で提供されたテクノロジーを自社の EUM およびサービス監視製品に統合しました。これには特に、HP OpenView Internet Services (OVIS) を BAC テクノロジーに置き換える作業が含まれます。

OVIS 監視ソリューションを置き換えるには、計画と労力が必要になります。このために HP は、移行のための余裕あるライセンス変換、移行のターゲットとなるテクノロジーに関する無料のコンピュータベースのトレーニング、そして移行のための長い猶予期間を用意しています。さらに、こうした準備をサポートするための出発点として本書を提供しています。

BAC スイートを利用する OVIS ユーザーのために、2 つの推奨コンポーネント SiteScope (SiS) および Business Process Monitor (BPM) が用意されています。SiS と BPM は、OVIS 機能に対して 1 対 1 に置き換わるものではありません。BAC、BPM、または SiS では、OVIS の一部の機能が使用できません。それでも、SiS および BPM を BAC と併用することで、こうした製品は OVIS ユーザーによる監視機能と能力を飛躍的に高めます。

移行を開始する前に、SiS と BPM の機能とテクノロジーを十分に理解しておくことが重要です。本書には、BAC、SiS、または BPM で OVIS 移行ユーザーが成功するために必要な全情報が含まれているわけではありません。弊社では、お客様と実装担当者様に対して、利用可能なトレーニングとともに、こうした製品で提供される教材を活用することをお勧めしています。

OVIS ユーザーは、初期の BAC 導入で、専門的なサポートを活用することを考慮すべきです。BAC または導入プロセスに不慣れな場合は、専門サービスのサポートを得ることを強くお勧めします。

### OVIS Migration Pack のコンポーネント

- BPM と SiS を含む Business Availability Center 製品の CD-ROM
- OVIS から BAC への変換ユーティリティ
- BAC、SiS、および BPM に関する無料のオンラインコンピュータベースのトレーニングサイトへのリンク

**SiS の使用方法に関する推奨事項:** SiS は、BAC フレームワークから独立して使用できます。cross-location view では、BAC は SiS とともに使用するべきです。こうしたタイプの使用法は、SiS Systems Availability Management (SAM) と呼ばれています。OVIS に存在する監視命名規則を最も厳密にエミュレートするこの機能を使用することをすべての OVIS ユーザーにお勧めします。

## ライセンス情報

### ライセンス使用権

各 OVIS Logical Target は、1 つの BPM ターゲットと 1 つの SiteScope ポイントに置き換えられます。

- BPM ターゲットは、指定のホスト上で実行するスクリプトとして定義され、測定およびステップを必要な数だけ含めることができます。これは、BPM ターゲットが HTTP\_TRANS またはカスタムプローブターゲットとまったく同様に扱われることを意味します。
- SiteScope ポイントは、1 つの場所からの 1 つのモニター (CPU、DNS、Oracle など) です。

OVIS 機能は、SiteScope と BPM の両方を含む範囲に渡っていたため、両製品が置き換えソリューションで必要になる場合があります。これは、OVIS ですべての拡張機能を使用している場合に特に当てはまります。BPM は、OVIS WebRecorder 機能および Probe Builder 機能とともに実行されていた複雑なビジネスランザクション監視で特に必要になります。

### ライセンスに関する重要項目

- サポートコストは、現在のレベルで維持されます。
- BAC により監視機能、サービスレベル管理機能、および検出機能を展開できます。

### OVIS 変換に含まれない、使用可能な BAC および SIS の要素

- SiteScope ソリューションテンプレート
- BAC Real User Monitor
- BAC Client Monitor
- BAC Diagnostics
- BAC Service Level Manager
- BAC Problem Management
- BAC Application Mapping
- Quick Test Professional

その他の機能はライセンスを必要とする場合がありますが、上記には該当しません。

ライセンスに関するご質問については、HP 営業担当または HP パートナーまでお問い合わせください。

## BAC の概要

BAC により、想定されるビジネス成果を得ることを保証するための重大なビジネスプロセスを測定、管理できます。これは、重要なアプリケーションの基盤となる複雑なインフラストラクチャの全体像を明確化し、ビジネス、エンドユーザー、およびシステムの視点を統合する画期的なトップダウン方式を提供するものです。

BAC では、次の処理を実行できます。

- サービスレベルを向上するためにビジネスの観点から IT を管理します。
- ビジネス目標を IT OLA (Operational Level Agreements: 運用レベル保証) に反映します。
- エンドユーザーの視点からサービスレベルを測定し、サマリと分析レポートを生成することにより、Lines of Business (LOB) と IT 間の調整を保証します。
- アプリケーションおよびインフラストラクチャの環境を動的に対応付けます。
- アプリケーションのダウンタイムを阻止して企業への影響を最小限に抑えるために、予防保全的に問題を識別したうえで、優先順位を付けて診断します。
- ビジネスリスクを最小化するために、本稼働前に変更による影響を評価します。

BAC には、パフォーマンスとアプリケーションの監視、エンドユーザーの管理、システムの可用性の管理、サービスレベルの管理、構成の管理、アプリケーションの対応付け、診断、および問題の分離のための統合アプリケーションおよびビジネスダッシュボードが含まれます。また、マネージドサービスとして BAC を導入することもできます。

### OVIS ユーザーの利点

BAC に不慣れな OVIS ユーザーにとって、導入オプションのレビュー時に考慮すべき重要な機能がいくつか存在します。

- 洗練された SLA 管理
- 広範なモニター
- サービス階層内での真のモデリング機能と複数のグループレベル (n レベル)
- 詳細な検出
- 広範なアプリケーション、ミドルウェア、およびプロトコルのトランザクションを記録する機能
- すべてのモニタータイプの一元的な構成
- プロファイルに基づきリモートの場所への BPM スクリプトの自動展開
- エクスポート機能を持つフレキシブルなカスタムレポートオプション

注記: これらの一部機能では、追加ライセンスの購入が必要です。

### ドキュメントライブラリ

BAC には、BAC コンソール ([ヘルプ] > [ドキュメントライブラリ] を選択します) およびカスタマサポート Web サイトからアクセス可能な大量のドキュメントライブラリが含まれています。以下に、推奨されるいくつかのトピックを示します。推奨されるトピックおよびドキュメントについては、カスタマサポート Web サイト <http://support.mercury.com/cgi-bin/portal/CSO/index.jsp> からダウンロードできます。カスタマサポート Web サイトにログインした後、「ドキュメント」リンクを選択し、目的の製品ドキュメントセットを選択してください (Business Availability Center)。

ドキュメント名	ドキュメントのトピックと焦点
GettingStarted.pdf	稼働に必要な基本的なステップ バイ ステップのロードマップを示します。
Deploy.pdf	
GettingStarted.pdf	ヘルプを参照します (BAC の計画および展開で役立つリソースを示します)。
GettingStarted.pdf	BAC アーキテクチャ (アーキテクチャの図を示し、環境内でセットアップするサーバー、データコレクタ、スクリプトツール、その他のコンポーネントを記述します)。
GettingStarted.pdf	展開の計画 (BAC の展開を計画する場合に考慮すべき基本的な問題をレビューするチェックリスト)。

ドキュメント名	ドキュメントのトピックと焦点
GettingStarted.pdf	クイックインストールガイド (インストールガイドへの参照を含むインストールステップの概要を示します)。
IntroConfigDataColl.pdf	データコレクタの概要 (Business Availability Center で使用可能なさまざまなデータコレクタの概要と、それらが多様な監視対象環境においてどのように機能するかについて説明します)。
BPMAdmin.pdf	Business Process Monitor の管理 (Business Process Monitor データコレクタの展開および管理の方法を説明します)。
UsingVuGen.pdf	Virtual User Generator の使用 (VuGen の使用方法の説明)。
UsingSAM.pdf	System Availability Management の使用 (レポートの作成に関する情報)。

## BAC の導入前に考慮すべき事項

現在の OVIS プローブシステムの展開に応じて、BAC 実装に対応する次のオプションを考慮してください。

### プローブと構成の考慮事項

**OVIS Management Server** – 構成情報と、毎時および毎日アーカイブされた測定データへのアクセスを可能にするために、暫くの間 OVIS サーバーを維持することをお勧めします。OVIS 内で顧客を削除すると、削除後にダッシュボードで顧客を参照できなくなります。追加データ保守オプションが使用可能であり、OVIS 管理者がレビューするべきです。詳細については、「[OVIS 測定データ](#)」を参照してください。

**プローブの構成** – 一部の OVIS プローブ構成は、OVIS から SiteScope への変換ツールを使用して、1 つまたは複数の SiS コレクタまたは BPM コレクタに移行できます。基盤となる実装での大きな差異により移行できないプローブ構成は、SiS および (または) BPM 内で再作成する必要があります。

**WebRecorder** – OVIS WebRecorder (HTTP\_TRANS) で記録されたトランザクションは、VuGen で再記録し、VuGen で実行することをお勧めします。「[HTTP\\_TRANS を再記録する手順](#)」を参照してください。

**Probe Builder プローブ** – VuGen および SiteScope では、60 以上のアプリケーションタイプがサポートされます。Probe Builder プローブで監視された大半のアプリケーションタイプは、BPM (VuGen、QuickTestPro(QTP)) または SiS のいずれかで監視できるようになりました。Probe Builder のユーザーは、BPM (VuGen または QTP) または SiS (アプリケーション固有のモニター、カスタムスクリプト、または Web スクリプトモニター) のいずれかにカスタムモニターを移行する必要があります。

**OVIS API を持つカスタムプローブ** – OVIS C API で作成されたカスタムプローブは、BPM または SiS による現在の形式に対して互換性をもちません。モニターを再作成するために SiS、VuGen、または QTP 内の既存のアプリケーションタイプを使用するか、または SiS により直接呼び出すことができるスクリプトを作成します。BPM は、複数の場所に対応するトランザクションスクリプト、および SLM または CMDB の機能に関連する必要性が存在する場合に推奨されます。

**スクリプトプローブ** – OVIS スクリプトプローブは、SiteScope から呼び出すように再記述できます。SiteScope の Script Monitor を設定する方法については、SiteScope ヘルプまたは Script Monitor のページに関連付けられているオンラインヘルプのいずれかを参照してください。

**負荷分散** – 複数のプローブシステムを監視の負荷分散で使用している場合、SiS または BPM のシステムの数可能な限り削減することをお勧めします。SiS および BPM は一般に、OVIS よりも高いスケーラビリティ値を持ちます。SiS と BPM のスケーラビリティの詳細については、SiS/BPM ドキュメントを参照してください。

**BPM および SiS の監視システム** – BPM と SiS を同じシステム上で実行することはお勧めできません。既存のプローブシステムを BPM と SiS の両方に変換することを計画している場合、追加システムが必要です。ただし、システムの利用率が若干増加する可能性があります。リソースを多用する HTTP\_TRANS IE プローブは、VuGen/BPM によるより高い並列処理を可能にする軽量な手段に置き換えられます。注記: また、ポートが競合する可能性があるために、OVIS と同じシステムに SiS をインストールしないことをお勧めします。

**手動による構成項目** – レポート、ビュー、ユーザー、サービス品質保証など、その他の OVIS 機能のいくつかについては、BAC 内で手動で構成する必要があります。詳細については、本書の「[手動による移行を必要とする OVIS サーバーサイド機能](#)」を参照してください。

**複数のプローブシステム** – インフラストラクチャの一部セグメントを監視するために複数のプローブシステムを使用する場合 (たとえば、特定の支社に関連するアプリケーションおよびインフラストラクチャのみを監視するために、支社にプローブシステムをインストールして使用する場合)、1 セグメントあたり最大で 2 つのシステム (1 つの SiS と 1 つの BPM) をインストールする必要があります。この時点で、モニターの全体的な展開をレビューすることをお勧めします。

同じターゲットを監視するために複数のプローブシステムを使用する場合、ターゲットを監視するために使用するプローブタイプに応じて、複数の SiS または BPM システムが必要です。たとえば、ターゲットを HTTP\_TRANS プローブで監視している場合、複数の BPM システムのみが必要です (BPM に変換されるプローブと SiS に変換されるプローブの詳細については、「付録 C」を参照してください)。



**複数のモニターグループ** – 複数のプローブ配置を持つ OVIS システムでは、変換ユーティリティにより同じ名前の複数のモニターグループが作成されます。

たとえば、テストサーバーOVRNTT159 上に顧客 HTTP1 が存在する場合を考えます。この顧客内のサービスグループも HTTP1 という名前を持ちます。サービスグループ HTTP1 には 3 つのプローブ配置が含まれるので、変換ツールにより SiteScope 内に 3 つのモニターグループが作成され、そのすべての名前が HTTP1 になります。これらはすべて同じ名前を持ちますが、各モニターグループはプローブの配置でタイムアウトなどの相違に応じて、異なる場合があります。維持するグループを選択し、その他のコピーは削除することをお勧めします。

**手動によるプローブの構成** – OVIS 変換ユーティリティを使用せず、BPM と SiS の両方ではなく BPM または SiS のいずれかにのみ監視を移動することもできます。この代替手段では、新しいモニターを実装 (構成) する必要があります。完全な OVIS 構成は、OVIS サーバー上で "iopsload -save" を実行することにより XML 形式で取得できます。

配置情報を必要とする場合は、BAC/BPM 内で監視をセットアップすることをお勧めします。

## BAC サーバーとハードウェアの考慮事項

現在の OVIS 管理システムの展開に応じて、BAC 実装に対応する次のオプションを考慮してください。

### ハードウェア

\* インストールする BAC ドキュメントで常に、最新のサイズとシステム要件を確認することをお勧めします。

**一般** – BAC は一般に、リニアな拡張性を備えた製品です。つまり、サーバーを追加でき、それにより 1 つの大規模システムを購入する以上のスケーラビリティの向上を実現できます。たとえば BAC では 1、2、3、5 サーバーのオプションが用意されており、それぞれのオプションで特定のタスクに対する専用システムを通じてすべてのシステム間で負荷を共有することにより、さらなる処理およびトランザクションの負荷に対応できます。SiS では、ターゲット数を増やす必要がある場合に、さらに SiS システムを追加できます。

**単一サーバー** – 2000 未満の論理ターゲットを持つ OVIS 顧客の場合は一般に、単一サーバー BAC 6.7 の実装により関連する要求がサポートされます。ただし長期的には、2 つのシステム展開により、さらなる成長、スケーラビリティ、およびパフォーマンスを実現できます。

**デュアルサーバー** – BAC 7.0 では、このホワイトペーパーの作成時点で、BAC で少なくとも 2 台のサーバーの展開が推奨されていました。

**高可用性** – BAC では高可用性を享受できます。最初にそれぞれのニーズが満たされるかどうかを確認する場合は、BAC 展開ガイドまたはオンラインヘルプを参照してください。BAC HA を考慮する場合には一般にサポートを受けることをお勧めします。より詳細なアドバイスについては hp 営業担当またはソリューションアーキテクトにご相談ください。

**データベース SiS** – SiS ではデータベースにデータを転送できますが、データベースは必要ありません。SiS は、より小規模のフォームファクターで機能できるように、データベースではなくファイル内のデータを使用する設計です。

**データベース BAC** – BAC では、SQL Server または Oracle のいずれかの外部データベースが必要です。データベースは別のシステムにインストールすることをお勧めします。BAC サーバーとリモートデータベース間のネットワーク接続が貧弱であるために大きな遅延が生じる場合は、パフォーマンスに影響することに注意してください(個別のサポートバージョンについては、BAC ドキュメントを参照してください)。



## 移行プロセスの概要

OVIS から BAC に移行する場合に考慮すべき要素がいくつか存在します。以降のセクションでは、OVIS から BAC に移行する場合に使用できる手順の概要を示します。

- 1) 移行を試みる前に、(SiteScope、BPM、および VuGen の各コンポーネントを含む) BAC について学習します。
  - a) VuGen、SiteScope、BAC、および BPM の導入時に、hp 教育サービスのオンライントレーニングをご利用頂けます。これらの無料リソースへのアクセス方法については、お手元に届いている移行に関する書簡を参照してください。この書簡がまだ届いていない場合には、hp 営業担当または hp サポートまでお問い合わせください。
  - b) 注記: Virtual User Generator (VuGen) は OVIS 6.20 に統合して使用可能です。BPM での使用を試みる前に、まず使用してみてください。これにより、使い慣れた環境で学習を進める機会が得られます。また、OVIS 6.20 で VuGen により作成されたスクリプトは、BPM に対して互換性を持ちます。
- 2) OVIS 実装の評価  
監視のインベントリを作成します。
  - a) lopsLoad -info によりカウントとシステム名を取得できます。
  - b) lopsLoad -save は、OVIS 構成の全 xml リストをエクスポートします(lopsLoad のヘルプについては、『OVIS ユーザーリファレンスガイド (OVIS Users Reference Guide)』を参照してください)。
  - c) BAC/SIS システムのニーズについて計画を立案できるように、プローブのタイプと数を文書化します。
    - i) HTTP\_TRANS プローブを識別します。HTTP\_TRANS プローブは、VuGen で手動の変換プロセスを実施する必要があります。詳細については、『[HTTP\\_TRANS を再記録する手順](#)』を参照してください。
    - ii) カスタムプローブを識別します。カスタムプローブは、変更または再作成する必要があります。
    - iii) スクリプトプローブを識別します。スクリプトプローブを正常に機能させるには、更新の必要があります。
  - d) 特別なアプリケーション監視ニーズを文書化します。たとえば、依存関係リソース、ユーザーとして実行、特別なパーミッションなどです。
- 3) 監視ニーズをレビューします。
  - a) 監視ニーズは変化しましたか?
  - b) システムを二次ステータスに移動しましたか? また、新しいアプリケーションをオンラインにしましたか?
  - c) SIS および BPM の追加監視機能により、監視の選択肢に変更がありますか?
- 4) SIS と BAC のシステム要件を作成します。
  - a) BAC 要件を定義します。
  - b) SIS 要件を定義します。
  - c) アプリケーション監視およびシステム実装のすべて特別なニーズを文書化します。
  - d) セキュリティ要件を定義します。
  - e) 階層化要件を定義します。
- 5) 実装を設計および計画します。
  - a) BAC (およびコンポーネント BPM、SIS) アーキテクチャを作成します。
  - b) 必要に応じて、高可用性 (HA) および災害回復 (DR) 計画を作成します。
  - c) 重要な指標を含めて、展開プロセスを計画します。
  - d) 検証プロセスを計画します。
  - e) オペレータのトレーニングを計画します。
- 6) 実装
  - a) 新しいソフトウェアをインストールします。
    - i) BAC。
    - ii) BAC コンポーネント (BPM、パッチ)。

- iii) リモートステーション上の BPM。
  - iv) BAC システム以外のシステムに SiS をインストールします。
  - v) 追加監視のために、リモートの場所で SiS をインストールします。
  - vi) BAC インストールに SiS システムを接続します。
- b) SiS に変換します - 全手順については、[「OVIS プローブ構成変換ユーティリティ」](#)を参照してください。
- i) ovis2sis.exe ユーティリティを使用して、モニター構成ファイルを作成します。  
 SiS 展開をセットアップしたら、OVIS Migration Pack で提供される ovis2sis 変換ユーティリティを使用して、多くの標準の OVIS プローブ構成を SiS モニターに変換できます。技術的に可能であればこのツールで、変換後のターゲットに対応するスケジュール、応答時間しきい値、およびダウンタイムのスケジュールの変換を行うこともできます。  
  
 BAC には、構成階層および展開に対するいくつかの調整を行うための良い機会を提供する追加機能が用意されています。たとえば BAC および SiS により、OVIS の 2 レベル階層よりもさらに柔軟なモニターのグループ化に対応する n レベル階層が可能になります。SiS はまた、スケジュールモニターよりも高い柔軟性を持ちます。
  - ii) ovis2sis で作成された出力ファイル (.mg) をレビューし、モニター構成を変更します。
  - iii) OVIS 変換ユーティリティで指定した「出力」ディレクトリから出力ファイルを 適切な SiS システムにコピーし、必要な手動による構成を実行します。
  - iv) 移行された各ターゲットの正確性を検証します。
  - v) 変換ユーティリティでサポートされないプローブタイプは、VuGen または SiS のいずれかにある BAC コンポーネントを使用して、同様のタイプの監視を手動で構成します。  
  
 たとえば VuGen を使用して、HTTP\_TRANS プローブ Web トランザクションを再記録するか、または SYS\_BASIC\_WMI プローブを置き換える SiS Windows Resource モニターを作成します。
  - vi) BAC で必要な方法で、アラームのしきい値と通知を作成します。
  - vii) BAC で、必要に応じてスケジュールオプションを構成します。
- c) BPM でトランザクションを構成します。
- i) 既存の VuGen スクリプトをロードします。  
 (1) VuGen を使用して zip により VuGen スクリプトをエクスポートし、それを BAC スクリプトレポジトリにロードします。BPM ターゲットをロードする方法については、BPM ヘルプを参照してください。
  - ii) HTTP\_TRANS プローブを BPM に変換します。[「HTTP\\_TRANS を再記録する手順」](#)の手順を参照してください。
  - iii) BAC で必要な方法で、アラームのしきい値と通知を作成します。
  - iv) BAC で、必要に応じてスケジュールオプションを構成します。
- 7) SiS と BAC のビューおよびレポートを作成します。
- 8) 制限されたアクセスのビューおよびダッシュボードについて、SiS ユーザーまたは BAC ユーザーをセットアップします。

## OVIS プローブ構成変換ユーティリティ

### はじめに

ovis2sis.exe ユーティリティを使用して、OVIS データベースを検査し、SiS モニター構成ファイル (拡張子 .mg) をエクスポートすることにより、SiS 構成を作成します。OVIS Customer/Service グループ構造は、SiS への変換で維持されます。インポートの直後、SiS システムへのコピー、または SiS 構成インタフェースを通じたコピーを行う前に、変換された構成ファイルを変更することにより、さらに変更を加えることができます。大半の OVIS プローブは、ovis2sis.exe 変換ユーティリティを使用して変換できます。変換できないプローブは、ovis2sis ユーティリティで警告が示され、SiS で無効になります。

Reporter データベースへのアクセスを必要とする ovis2sis.exe ユーティリティは、OVIS Management Server 上でインストールする必要があります。ovis2sis ユーティリティは OVIS 構成を読み込み、出力ファイルを作成します。OVIS サーバーまたは構成のどの要素も変更されません。

### バージョンと国際化対応

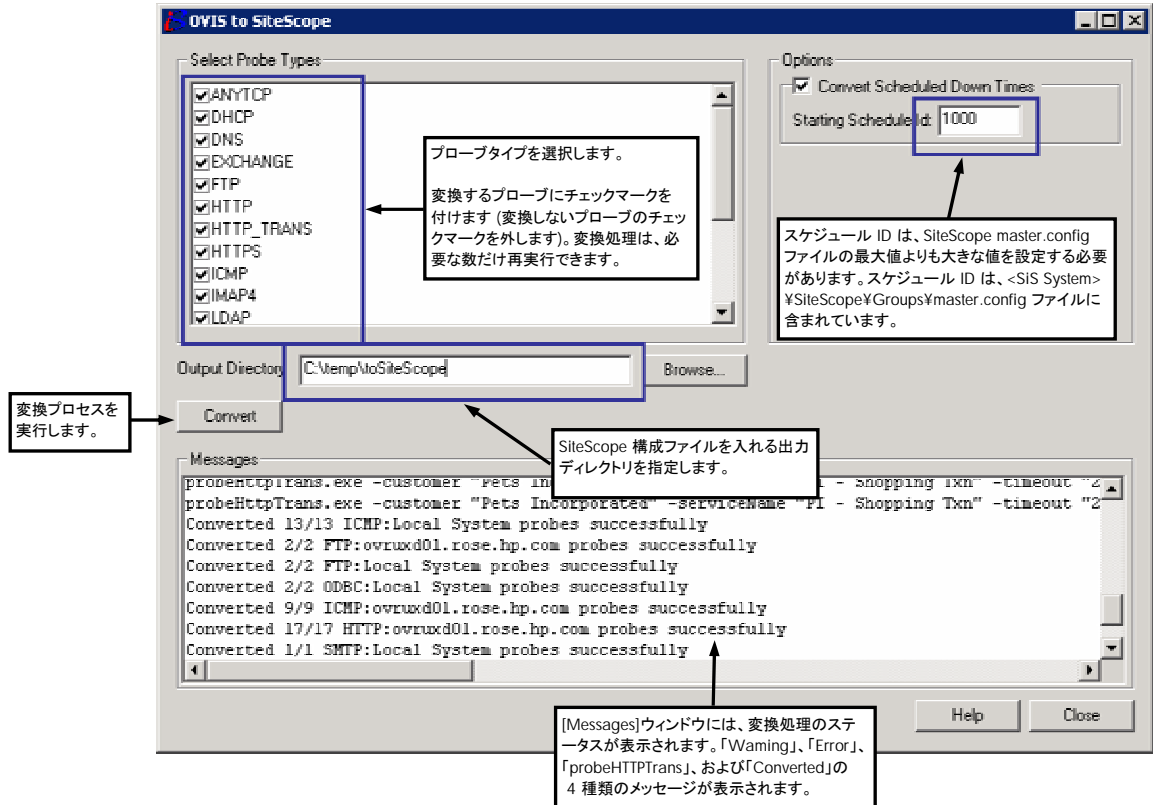
ovis2sis 変換ユーティリティは国際化されており、OVIS の日本語版ユーザーでも使用できます。OVIS 6.x バージョンから BAC 6.5 以降のバージョンへの変換で使用できます。注記: OVIS の日本語版を使用していて、引き続き日本語版製品を使用することをご希望のお客様には、BAC 7.0 に移行することをお勧めします。このバージョンは、次に翻訳される BAC 製品です。

### インストール

1. OVIS Management Server に ovistosissetup.exe をコピーします。ovis2sis 変換ユーティリティは、OVIS サーバーにインストールする必要があります。
2. OVIS Management Server で ovistosissetup.exe プログラムを実行すると、ovis2sis ユーティリティがインストールされます。

OVISToSiSsetup.exe は、ovis2sis.exe を %bin ディレクトリにインストールします。インストーラはまた、[スタート]、[プログラム]、[HP OpenView]、[Internet Services]、[OVIS Migration Tools] メニューにこのユーティリティを追加します。

[プログラムの追加と削除] にエントリが追加されるので、ユーティリティを簡単に削除できます。この場合、ユーティリティのみが削除され、OVIS インストールはそのまま残ります。



## OVIS から SiS への変換手順

- 変換するプローブタイプを選択します。デフォルトでは、すべてのプローブタイプが選択されています。
  - 注記: このツールは、必要な数だけ再実行できます。これにより、OVIS プローブシステムのいくつかをプローブ別のグループに分類できます。ただし、プローブ出力ファイル名は変更されないことに注意してください。同じディレクトリに出力する場合は、その都度既存のファイルを上書きできます。
- ダウンタイムのスケジュール設定を SiS スケジュールに変換することもできます。このためには、[Convert Scheduled Down Times] チェックボックスをオンにします。また、[Schedule Id] フィールドを <SiteScope System>%<SiteScope Directory>%<Groups>%master.config ファイルの "\_nextAdditionalScheduleID" より大きくする調整が必要になる場合もあります。SiS に存在するスケジュールは 1000 未満であるために、一般に競合を回避するために 1000 は十分な大きさです。
  - 日時指定の OVIS ダウンタイムは、モニターの有効/無効設定に変換されます。OVIS 定期的なダウンタイムは、範囲スケジュールに変換されます。「n 日おき」、「n 週おき (n は 1 より大きい数)」、「毎月」のタイプのダウンタイムのスケジュールは変換されません。詳細については、「[スケジュール項目](#)」を参照してください。
- 新しい SiS 構成ファイルに出力ディレクトリを選択します。
- プローブタイプ、スケジュール ID、および出力ディレクトリを設定したら、[Convert] ボタンをクリックします。これにより選択結果が適用され、SiS 構成ファイルが作成されます。これは、構成サイズ、複雑さ、およびシステムのパフォーマンスに応じて、数分かかる場合があります。変換プログラムの完了時に、メッセージウィンドウに完了メッセージが表示されます。

[Convert] ボタンを押した後、このユーティリティにより OVIS データベースが検査され、OVIS 管理サーバー上の指定の出力ディレクトリに構成ファイルが作成されます。

変換後のファイル形式は次のとおりです。

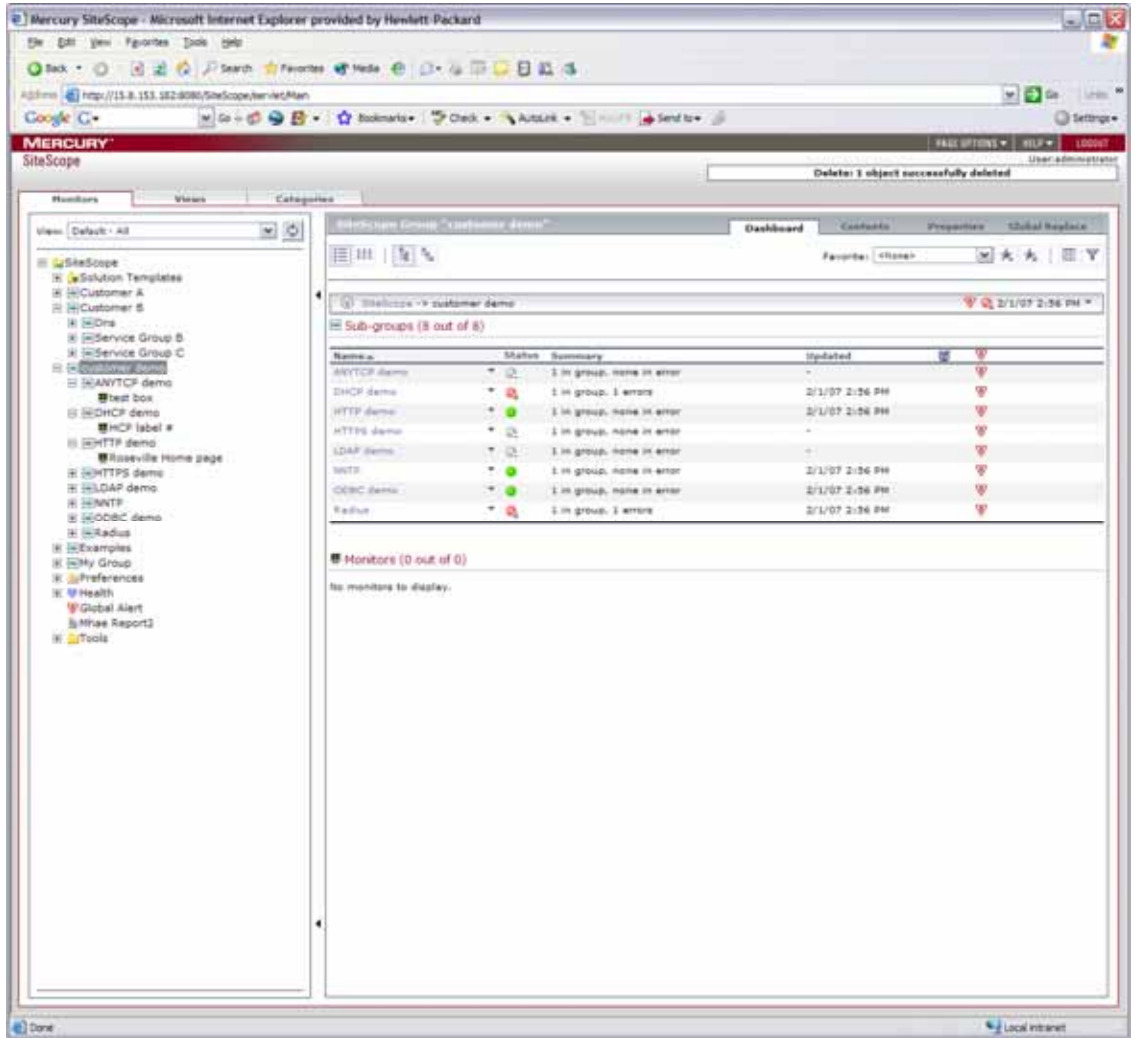
```
<OVIS probe location>_<customer>.mg
<OVIS probe location>_<service group>.mg
to_master.config
```

http\_trans.txt

5. 変換が完了したら、[Messages] フィールドのメッセージをレビューします。
  - a) [Warning]、[Error]、[probeHttpTrans] の各項目に注意してください。これらの項目では、SiS または BPM (probeHttpTrans) での構成のフォローアップが必要になります。この画面から全メッセージテキストをコピーし、別のエディターでそれを確認することをお勧めします。これにより、変更の追跡と修正が可能になります。
6. 変換後のプローブおよびスケジュールの構成ファイルが指定の出力ディレクトリに含まれます。ovis2sis 変換ユーティリティにより、各顧客の mg ファイル、および各プローブの配置場所のサービスグループが作成されます。
  - a) 出力ファイルをレビューし、移行できなかった項目を確認します。ovis2sis 変換ユーティリティウィンドウのメッセージをレビューし、問題を解決するための修正作業を行います。
    - i) インポート後に SiS で調整を必要とするプローブ項目について、「[ovis2sis 変換ユーティリティで変換できるプローブタイプ](#)」セクションをレビューします。
    - ii) 自動的に変換されたが、問題があるために SiS 内で無効になっているプローブを修正します。
    - iii) HTTP\_TRANS は、自動的に変換されません。
  - b) 変換されていないダウンタイムおよびスケジュール機能について、「[スケジュール項目](#)」をレビューします。
  - c) 手動による構成を必要とするプローブの詳細については、セクション「[手動による移行を必要とするOVISプローブ](#)」を参照してください。
  - d) HTTP\_TRANS プローブでは、プローブを実行するコマンド行が ovis2sis ユーティリティにより収集され、メッセージフィールドに表示されます。このコマンド行はまた、http\_trans.txt ファイルにも保存されます。VuGen 内でトランザクションを再記録する必要があります。http\_trans.txt ファイルを使用してプローブのコマンド行を取得し、それを VuGen にペーストしてトランザクションを再記録できます。
7. SiS システムにインポートするには次のようにします。
  - a) SiS を停止します。
  - b) サービスグループ (またはグループ構造全体) は、個別の監視セクションを新しい mg ファイルにペーストすることにより、縮小または変更できます。\_nextID および \_id の属性に重複が含まれないことを確認してください。さらに、コピー、ペースト、および削除を行うことで BAC (または SiS) GUI 内で変更を加えることができます。
  - c) SiS システム上の <SiS install directory>/groups ディレクトリに変換後の .mg ファイルをコピーします。変換後のダウンタイムスケジュールを含む to\_master.config ファイルの内容を <SiS install directory>/groups/master.config ファイルに追加します。
  - d) SiS を再起動します。SiS を停止しておき、再起動することにより、SiS の起動時にのみ実行されるいくつかの構成チェックが可能になります。

## 追加手順

BAC と連携させて SiS を使用している場合は、Admin/CMDB/Adapters の下にある [**Synchronize**] ボタンをクリックすることにより、BAC に対して SiS を再同期します。この手順は、新たに追加した項目をビューに表示するために、監視ビューを再生成するうえで役立ちます。



**注記:** パスワードは、ovis2sis 変換ユーティリティにより生成される .mg ファイル内ではクリアテキストとして含まれます。mg ファイルが SiteScope に読み込まれると、パスワードが暗号化され、ファイルシステムに自動的に書き戻されます。mg ファイルにはパスワードが依然としてクリアテキストで存在するので、作業完了後に OVIS システムからファイルを必ず削除してください。

## ovis2sis 変換ユーティリティで変換できるプローブタイプ

下表に、ovis2sis 変換ユーティリティで変換できるプローブタイプと、変換結果の SIS モニター構成を示します。また、完全に変換されない可能性のあるオプションに関する注意事項を備考欄に記述しています。

**注記:** プローブが SIS モニターに完全に変換できない場合、SIS で無効として表記されます。

OVIS プローブタイプ	SIS モニター	備考
ICMP	PingMonitor	「パケット数」オプションは変換されませんが、 master.config(_pingPacketsInitial および _pingPacketsRetry) でグローバルに構成できます。 OVIS 応答時間の目標が SIS しきい値 (roundTripTime) に変換されます。
HTTP / HTTPS	URLMonitor	次のオプションは変換されません。 <ul style="list-style-type: none"><li>複数の演算子が指定されたパターンマッチ (例: +hp +software -error)</li><li>[HTTP ユーザーエージェントヘッダーを変更] フィールド</li><li>[HTTP ホストヘッダーを変更] フィールド</li><li>[HTTP Content-Type を変更] フィールド</li><li>「キャッシュ (プロキシ) を使用しない」オプション</li><li>Cookie ファイルの処理 (SIS POST data フィールドに Cookie を設定します。詳細については、URLMonitor 構成ドキュメントを参照してください)。</li><li>クライアント証明書ファイル (SIS certificate directory に証明書をコピーします。詳細については、URLMonitor 構成ドキュメントを参照してください)。</li></ul> OVIS 応答時間の目標が SIS しきい値 (roundTripTime) に変換されます。
FTP	FTPMonitor	次のオプションは変換されません。 <ul style="list-style-type: none"><li>FTP ポートの変更。</li><li>モード値の「自動」および「アクティブ」は無視されます。</li></ul> OVIS 応答時間の目標が SIS しきい値 (roundTripTime) に変換されます。
DNS	DNSMonitor	OVIS 応答時間の目標が SIS しきい値 (roundTripTime) に変換されます。 次のオプションは変換されません。 <ul style="list-style-type: none"><li>再試行回数</li></ul> 次のオプションは変換されず、モニターが無効になります。 <ul style="list-style-type: none"><li>53 に設定されていない DNS ポート。</li><li>逆引きの検証のためにホスト名を含むパターン。</li><li>'.' 演算子を含むパターン。</li><li>複数の '+' 演算子を含むパターンマッチ。</li><li>AND、OR を含むパターン構成。</li></ul> 注記: <ul style="list-style-type: none"><li>DNS サーバー名はその IP アドレスに変換されます。</li></ul> OVIS 応答時間の目標が SIS しきい値 (roundTripTime) に変換されます。
ANYTCP	PortMonitor	次のオプションは変換されません。 <ul style="list-style-type: none"><li>パターンマッチ設定</li><li>複数の演算子と反転パターンを含むパターンマッチ (例: +hp +software -error)</li><li>AND、OR を含むパターン構成。</li></ul> OVIS 応答時間の目標が SIS しきい値 (roundTripTime) に変換されます。



OVIS プロローブタイプ	SiS モニター	備考
DHCP	DHCPMonitor	<p>次のオプションは変換されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>再試行回数</li> <li>クライアントのポート</li> </ul> <p>次のオプションは変換されず、モニターが無効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>DHCP サーバーのポート</li> <li>クライアント Mac アドレス</li> <li>[リレーエージェントオプション] チェックボックスにより可能になる次のオプション。 <ul style="list-style-type: none"> <li>リレーエージェント</li> <li>エージェントサーキット ID</li> <li>エージェントリモート ID</li> </ul> </li> <li>提供された情報の受け入れ (Yes 値)</li> <li>任意のパターンマッチ</li> <li>任意のパターン構成</li> </ul> <p>OVIS 応答時間の目標が SiS しきい値 (roundTripTime) に変換されます。</p> <p>*SiS では、DHCP モニタータイプをサポートするために他社製の Java DHCP ライブラリが必要になります。SiS ヘルプ ([Configuration] &gt; [Configuring SiteScope Monitors] &gt; [SiteScope Monitors] &gt; [DHCP Monitor]) を参照してください。</p>
LDAP	LDAPMonitor	<p>次のオプションは変換されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>検索範囲</li> <li>タイムアウト</li> </ul> <p>次のオプションは変換されず、モニターが無効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[認証を有効にする] チェックボックスにより可能になる次のオプション。 <ul style="list-style-type: none"> <li>認証の種類</li> <li>ユーザー名</li> <li>ドメイン</li> </ul> </li> <li>'.' 演算子を含むパターン。</li> <li>複数の '+' 演算子を含むパターンマッチ。</li> <li>AND、OR を含むパターン構成。</li> <li>[LDAP を有効にする] チェックボックス</li> <li>LDAP の証明書ファイル</li> </ul> <p>OVIS 応答時間の目標が SiS しきい値 (roundTripTime) に変換されます。</p>

OVIS プローブタイプ	SiS モニター	備考
Exchange	MAPIMonitor	<p>注記:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>MAPI Monitor システム、ユーザーアカウントなどの構成については、SiS ドキュメントの手順に従ってください。</li> <li>OVIS Exchange プローブとは異なり SiS MAPI Monitor では常に、往復にかかる時間 (ラウンドトリップ時間) を測定するためにメッセージを送受信します。したがって、メールボックスの読み取りのみ、メールボックスの読み取りおよびメッセージの送信、メッセージの送信のみを測定する構成の OVIS Exchange プローブは、SiS で往復にかかる時間を測定する MAPI Monitor に変換されます。</li> </ul> <p>次のオプション ([メールを送信する] チェックボックスにより可能になる) は変換されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表示する名前</li> <li>メールアドレス</li> <li>メッセージサイズ</li> </ul> <p>次の構成は変換されず、モニターが無効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読み取りユーザーのメールボックス名および Exchange サーバーがプロファイルに指定されている。</li> <li>送信ユーザーのメールボックス名および Exchange サーバーがプロファイルに指定されている。</li> </ul> <p>OVIS 応答時間の目標が SiS しきい値 (roundTripTime) に変換されます。</p>
ODBC	DatabaseMonitor	<p>次のオプションは変換されず、モニターが無効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>'.' 演算子を含むパターン。</li> <li>複数の '+' 演算子を含むパターンマッチ。</li> <li>AND、OR を含むパターン構成。</li> </ul> <p>注記:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SiS のデフォルトの ODBC ドライバである sun.jdbc.odbc.JdbcOdbcDriver が使用されます。</li> <li>SiS インストールが OVIS システムとは異なるシステム上に存在する場合、ユーザーは SiS システム上で新しい ODBC 接続エントリを作成する必要があります。</li> </ul> <p>OVIS 応答時間の目標が SiS しきい値 (roundTripTime) に変換されます。</p>
SMTP	MailMonitor	<p>次のオプションは変換されず、モニターが無効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>25 に設定されていないポート。</li> </ul> <p>次のオプションは変換されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>送信者</li> <li>メッセージのサイズ</li> </ul> <p>OVIS 応答時間の目標が SiS しきい値 (smtpTime) に変換されます。</p>
POP3	MailMonitor	<p>次のオプションは変換されず、モニターが無効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>110 に設定されていないポート。</li> </ul> <p>SiS Mail Monitor は、POP3 OVIS プローブと同様に、メールボックスからの読み取りのみを行うように構成できます。OVIS POP3 プローブおよび SiS Mail Monitor はともに、ログインしてメールボックスの内容を読み取ろうとします。しかし、POP3 プローブとは異なり、Mail Monitor はユーザーの指定した検索テキストを含むメッセージを検出した場合にのみ成功のレポートを行います。Mail Monitor は、一致するメッセージを削除します。Mail Monitor で POP3 プローブを模倣するには、メッセージの送信と読み取りを行うように構成します。そうでない場合、ユーザーが手動で Mail Monitor にメッセージをフィードする必要があります。</p> <p>SiS モニターでメッセージを送信するには、あて先の電子メールアドレスが必要です。'ovrtest¥admin' のような SAM 互換の名前は使用できません。変換ユーティリティは、SAM 名 'ovrtest¥admin' をユーザープリンシパル名 'admin@ovrtest.adapps.hp.com' に変換することを試みます。これが失敗した場合、モニターは無効になります。</p> <p>OVIS 応答時間の目標が SiS しきい値 (receiveTime) に変換されます。</p>

OVIS プローブタイプ	SiS モニター	備考
IMAP4	MailMonitor	<p>次のオプションは変換されず、モニターが無効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>143 に設定されていないポート。</li> </ul> <p>SiS Mail Monitor は、IMAP4 OVIS プローブと同様に、メールボックスからの読み取りのみを行うように構成できます。OVIS IMAP4 プローブおよび SiS Mail Monitor はともに、ログインしてメールボックスの内容を読み取ろうとします。しかし、IMAP4 プローブとは異なり、Mail Monitor はユーザーの指定した検索テキストを含むメッセージを検出した場合にのみ成功のレポートを行います。Mail Monitor は、一致するメッセージを削除します。Mail Monitor で IMAP4 プローブを模倣するには、メッセージの送信と読み取りを行うように構成します。そうでない場合、ユーザーが手動で Mail Monitor にメッセージをフィードする必要があります。</p> <p>SiS モニターでメッセージを送信するには、あて先の電子メールアドレスが必要です。'ovrtest¥admin' のような SAM 互換の名前は使用できません。変換ユーティリティは、SAM 名 'ovrtest¥admin' をユーザープリンシパル名 'admin@ovrtest.adapps.hp.com' に変換することを試みます。これが失敗した場合、モニターは無効になります。</p> <p>OVIS 応答時間の目標が SiS しきい値 (receiveTime) に変換されます。</p>
NNTP	NewsMonitor	<p>次のオプションは変換されず、モニターが無効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>119 に設定されていないポート。</li> </ul> <p>次のオプションは変換されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最大受信バイト数</li> </ul> <p>注記:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SiS 名は、ニュースグループと "@"、およびサーバーから構成されます (例: comp.lang.perl.misc@news.corp.hp.com)。</li> </ul> <p>OVIS 応答時間の目標が SiS しきい値 (roundTripTime) に変換されます。</p>
RADIUS	RadiusMonitor	<p>次のオプションは変換されず、モニターが無効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ネットワークアクセスポート</li> <li>呼ばれるステーションの ID</li> <li>呼出し側ステーションの ID</li> <li>デフォルトの PAP (Password Authentication Protocol: パスワード認証プロトコル) 以外のパスワードプロトコル</li> </ul> <p>次のオプションは変換されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>再試行回数</li> </ul> <p>注記:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SiS 名は、ユーザー名と "@"、および Radius サーバーから構成されます (例: admin@ovrntt79.hp.com)。</li> </ul> <p>OVIS 応答時間の目標が SiS しきい値 (roundTripTime) に変換されます。</p>
MAILROUNDTRIP	MailMonitor	<p>次のオプションは変換されず、モニターが無効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>25 に設定されていない送信ポート。</li> <li>143 または 110 に設定されていない読み取りポート。</li> </ul> <p>次のオプションは変換されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>送信者</li> <li>メッセージサイズ</li> </ul> <p>OVIS 応答時間の目標が SiS しきい値 (roundTripTime) に変換されます。</p>

## 手動による移行を必要とする OVIS プローブ

以下の OVIS プローブタイプは、ovis2sis 変換ユーティリティによって変換されず、SiS または BPM での監視のために手動で構成する必要があります (また、VuGen の使用が必要になる場合もあります)。

OVIS プローブ	SiS または BPM	備考
SAP	SiS または BPM	SAP トランザクションまたは SiS モニターを再記録するために VuGen を使用します (追加ライセンスが必要です)。
WMI	SiS Server Monitor	関心のある特定のパフォーマンス基準で Windows Resource モニターを構成するか、または複数の Server Monitor (例: CPU、ネットワークなど) を使用します。
DialUp	SiS Windows Dialup	Windows Dialup モニターを構成し、確立済みのダイヤルアップ接続を経由して実行するモニターを選択します。
SOAP	SiS Web Service	Web Service モニターを構成します。
Streaming Media	SiS Real Media Player または Windows Media Player	Real Media Player モニターまたは Windows Media Player モニターを構成します。
Script プローブ	SiS スクリプト	<p>OVIS スクリプトを SiS スクリプトに変換します。この変換の主要な作業は、OVIS が使用する複数行形式から SiS が使用する単一行出力形式に出力を変更することです。次に例を示します。</p> <p>OVIS 出力:</p> <pre>Target=Drive(c) ResponseTime=0 Metric_1=600 Metric_2=383 Metric_3=63.92 Availability=1</pre> <p>単一行に変更し、対応する照合パターンを作成する必要があります。</p> <p>出力:</p> <pre>Target=Drive(c) Metric_1=600 Metric_2=383 Metric_3=63.92</pre> <p>パターン:</p> <pre>/Target=(.*) Metric_1=(¥d+) Metric_2=(¥d+) Metric_3=(¥d*¥.{0,1}¥d*)/</pre> <p>可用性と応答時間は SiS スクリプトモニターにより自動的に収集されるので、必要ないことに注意してください。</p>
WAP	SiS または BPM	WAP トランザクションを記録するには、VuGen を使用します。
SMS		SiS または BPM では使用できません。
NTP		SiS または BPM では使用できません。
Network Bandwidth		SiS または BPM では使用できません。Network Bandwidth モニターで、一部の情報を入手できます。
TFTP		SiS または BPM では使用できません。ソケットベースで tftp アプリケーションを記録するには VuGen を使用します。
Custom Probe SDK	SiS または BPM	カスタムプローブを VuGen C ユーザースクリプトに変換するか、またはカスタムプローブコードを SiS スクリプトにラッピングします。
カスタムスクリプトまたは Probe Builder スクリプト	SiS スクリプトまたは VuGen モニターまたは BPM	VuGen でトランザクションを再記録します。Citrix などの Probe Builder プローブは BPM で再記録できます。
HTTP_TRANS	BPM "Web (HTTP/HTML)" または "Click and Script" スクリプト	HTTP_TRANS プローブでは、Web アプリケーションの再記録が必要です (以下を参照してください)。再記録に必要なコマンドは、出力ディレクトリ内の http_trans.txt ファイルに書き込まれます。

## HTTP\_TRANS を再記録する手順

OVIS WebRecorder (HTTP\_TRANS プローブタイプ) スクリプト言語と VuGen スクリプト言語が異なるために、推奨される移行プロセスではトランザクションを再記録するか、VuGen スクリプト内でトランザクションを収集する WebRecorder プローブを VuGen 内で再生する必要があります。

注記: WebRecorder で使用する機能に応じて (例: 可用性チェックスクリプト、クッキー処理など)、VuGen のスクリプト言語で追加スクリプトが必要になる場合があります。

VuGen 内で WebRecorder プローブを実行するには、次の手順に従ってください。

1. WebRecorder トランザクションを実行できるプローブシステム上で (OVIS リモートプローブシステムまたは OVIS 管理サーバーのいずれか)、VuGen をインストールします (一般的に測定サーバーはすべてのトランザクションを実行できますが、特別な RunAs アカウントまたは IE ユーザー設定が特定のプローブシステム上で作成されている場合、このリモートプローブシステム上のトランザクションを実行することが必要になる場合があります)。

2. 次のレジストリキーを設定します。

場所

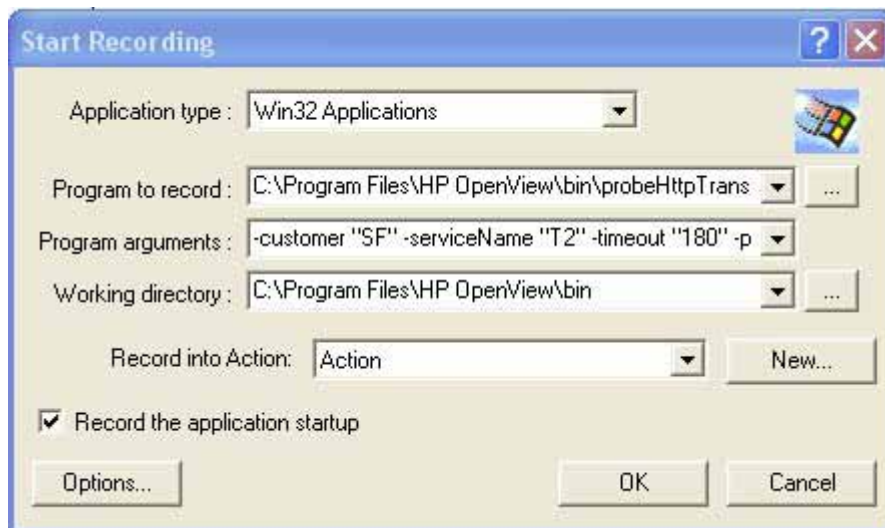
Software\Hewlett-Packard\Internet Services\CurrentVersion

DWORD 値の TraceConfig を作成し、1 に設定します。

3. ovis2sis 変換ユーティリティは、すべてのトランザクションのコマンド行を表示します。こうしたコマンドは、次の要領で ovis2sis 変換ユーティリティの出力ディレクトリにある http\_trans.txt ファイルにも書き込まれます。

```
probeHttpTrans2.exe -customer "SF" -serviceName "T2" -timeout "180" -port "80" -serviceid "0;0;0;" -transFile "httptrans.dat" -embedded "1" -ignore "1" -version "2" -interval 300 -print
```

4. VuGen を実行し、"Web (HTTP/HTML)" スクリプトまたは "Click and Script" スクリプト内で上記のコマンド行を指定します。下記のスクリーンショットは、[Program to record] で probeHttpTrans2.exe が設定され、実行可能プログラムのパラメータが [Program arguments] に指定された [Start Recording] ダイアログを示しています。



Win32 Applications アプリケーションタイプを選択し、正しいプローブ実行可能プログラム (probeHttpTrans2.exe または probeHttpTrans.exe) を使用することを確認します。

IE モードトランザクションの記録の終了を視覚的に参照するには、上記の [Program arguments] リストに -showgui コマンド行引数を追加します。

5. トランザクションの識別手順については VuGen のマニュアルに、BAC への VuGen スクリプトのアップロードについては BPM のマニュアルに従ってください。

## スケジューラ項目

**OVIS のダウンタイムのスケジュール** は SIS の次のいずれかに変換されます。

Enable/Disable Monitor (モニターの有効/無効)

または

Range Schedule (範囲スケジュール)

日時指定の OVIS ダウンタイムは、モニターの有効/無効設定に変換されます。OVIS 定期的なダウンタイムは、範囲スケジュールに変換されます。

ovis2sis 変換ユーティリティは、ターゲットに複数のスケジュールの割り当てが存在する場合に、複数の OVIS 定期的なダウンタイムを単一の SIS 範囲スケジュールに組み合わせるを試みます。

たとえば、ターゲットに毎日 10:00pm ~ 11:00pm のダウンタイム "Outage1" と、毎週日曜 11:00pm ~ 11:30pm の別のダウンタイム "Outage2" が存在する場合、このユーティリティは両方の OVIS ダウンタイムを含む単一の SIS 範囲スケジュール "Outage1Outage2" に 2 つのダウンタイムを組み合わせます。

次の OVIS ダウンタイムは変換されません。

n 日おき

n 週おき (n は 1 より大きい数)

毎月

### OVIS プロープのスケジュール機能

プローブ遅延、ネットワーク接続、およびターゲットの優先順位は、BAC または SIS で使用できませんが、使用可能な機能によりエミュレートできます。たとえば、負荷分散のために SIS Range Schedule を作成したり、SIS 'Depends On' 機能を使用したりできます。

## 手動による移行を必要とする OVIS サーバーサイド機能

次の OVIS サーバーサイド機能は手動で移行する必要があります。

OVIS	SIS または BAC	備考
標準レポート	SIS レポート	さまざまな選択、グループ化、および表示のオプションを持つ SIS 管理レポートを作成します。BAC Systems Availability Monitors (SAM) には、複数の場所に関する SIS レポートで役立つレポートおよびビューが含まれています。BAC End User Monitoring (EUM) には、BPM の複数の場所に関するレポートに役立つビューおよびレポートが含まれています。
カスタムレポート	BAC レポート	Reporter に統合されたカスタム crystal レポートは移行できません。SIS、BAC には、導入後すぐに使用できる追加レポートと、大半のニーズに対応できるカスタムレポート機能が提供されています。さらに、一部のデータを追加処理のためにエクスポートできます。
SLA	BAC SLA	BAC は、高度な SLA 機能およびサービスレベル管理 (SLM: Service Level Management) 機能を提供します。これには、堅牢な SLA の作成とメトリックの評価メカニズムが含まれます。
プロファイル/制限表示	SIS ユーザーまたは BAC ユーザー	OVIS プロファイル/制限付きビューのユーザーおよび構成を SIS または BAC のユーザーに手動で移行します。モニター階層をレビューする良い機会が得られるために、OVIS プロープの移行後にこの作業を行うことをお勧めします。
通知	SIS 警告 または BAC 警告	OVIS 通知は、SIS 警告に手動で変換する必要があります。また、BPM Alarm を使用している場合、通知を構成することが必要になります。
目標のしきい値	SIS または BAC BPM のしきい値	移行可能なプローブタイプの応答時間のしきい値のみが変換されます。したがって、非応答時間ベースのメトリックのしきい値は、BAC または SIS のいずれかのユーザーが手動で作成する必要があります。
目標のアラーム	SIS または BAC の警告	アラームは、SIS および BAC に手動で変換する必要があります。

OVIS	SiS または BAC	備考
通知	SiS または BAC の警告	OVIS 通知は、SiS 警告に手動で変換する必要があります。

## OVIS 統合

OVIS	SiS または BAC	備考
OVO/U、 OVO/W	SiS	SiS → OVO 統合 (2007 年 5 月から使用可能です)。詳細については、 <a href="http://h20229.www2.hp.com/products/ss/download_0001.html">http://h20229.www2.hp.com/products/ss/download_0001.html</a> を参照してください。
OVO/U、 OVO/W	BAC	BAC BPM 警告は、OVO と統合するための代替メッセージとともに OpcMsg コマンドを実行するように構成できます。例については付録 B を、追加オプションについては BAC BPM オンラインヘルプを参照してください。  BAC[OVO→BAC] の統合を含む OVO Event の統合は、BAC 6.6 で使用可能です。この統合を実行する方法については、BAC 6.6 ガイドを参照してください。
NNM	SiS	新しい警告を作成することにより、SNMP トラップを構成してグループ、モニターに割り当てます。
OVPM (完全および埋め込み)	SiS	SiS Quick レポートを作成します。
SIP	該当なし	移行は行われません。
Reporter (完全)	該当なし	移行は行われません。
OVPI (レポート)	N/A	移行は行われません。
OVTA	診断/BAC	移行は行われません。OVTA を診断に置き換えます。BAC との診断の統合を構成します。
SIM	SiS	
Service Desk	SiS/BAC → OVO	

## OVIS 測定データ

OVIS 測定データは、データ形式および各ブローブによりレポートされる一部のメトリックの相違により、BAC に移行されません。

より円滑な移動を行い、毎時および毎日アーカイブされた測定データへのアクセスを可能にするために、暫くの間 OVIS サーバーを維持することをお勧めします。

注記: データ保持間隔に基づいて、OVIS 内でデータが自動的に削除されることに注意してください。データ保持ウィンドウよりも長い期間データを維持する場合のために、いくつかのオプションが用意されています。

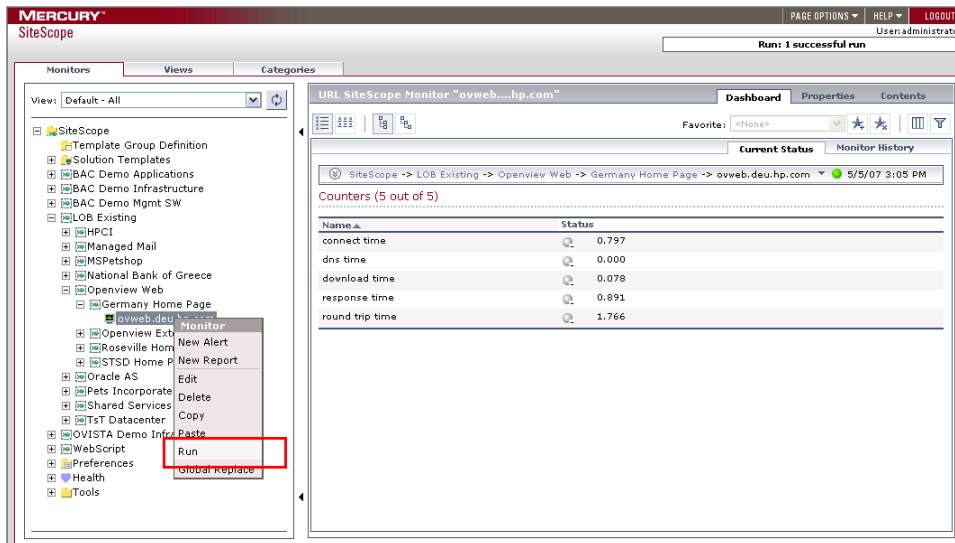
1. OVIS の保持ウィンドウを必要な時間ウィンドウよりも長く設定します。これは、OVIS Configuration Manger の [ファイル] (メニュー) → [設定] (メニュー) → [データベース] → [オプション] で実行できます。
2. Windows のコントロールパネルの [サービス] で Reporter Service を [手動] に設定します。
3. OVIS の構成で使用する Reporter データベースからデータをエクスポートします。

## OVIS Troubleshooting Insight Package の機能

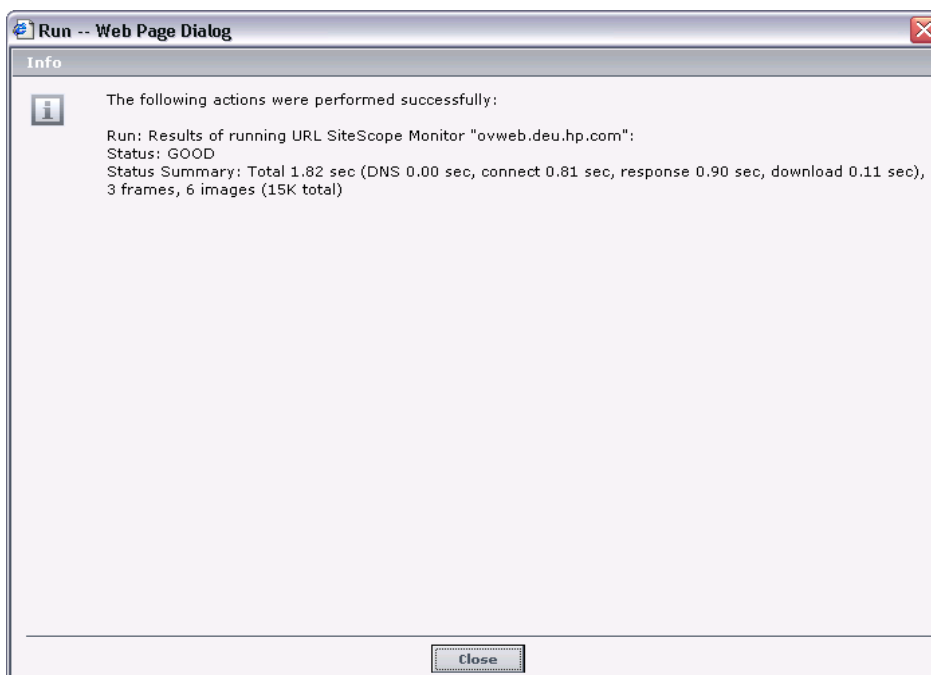
OVIS では、ユーザーの要求または警告のトリガーによりコマンドを実行できました。こうしたコマンドは、Troubleshooting Insight Package (TIP) と呼ばれています。これらのコマンドの主な目的は、現在のステータスを検証するために、不十分なりモート位置から不十分なターゲットをオペレータが再実行できるようにすることです。ターゲットの再実行を行う使用例は、SiteScope にも存在します。SiS インタフェースからターゲットを再実行した場合は、テスト結果の出力が表示されます。またこの実行により、標準の警告とデータ収集のプロセス



に沿ってサンプルが処理されます。これにより、OVIS で測定間隔の実行により警告がクリアされるまで待機するのではなく、直ちに警告をクリアできます。



上記のスクリーンショットは、HTTP タイプのモニターで [Run] を選択した例です。



上記のスクリーンショットは、ターゲットの再実行により得られた出力の例です。  
追加オンデマンド機能は、クラシックな SIS インタフェースの [Tools] から使用できます。

## 付録 A

### BAC アーキテクチャ

BAC アーキテクチャは、エンタープライズネットワーク環境でセットアップしたサーバー、データコレクタ、スク립ツール、その他のコンポーネントから構成されます。

### BAC サーバー

BAC サーバーは、システム管理、データ処理、レポート、および警報の処理を担当します。エンタープライズネットワーク環境で、1 台以上の Microsoft Windows マシンまたは Sun Solaris マシンに次の BAC サーバーをインストールします。サポートされる全プラットフォームのリストについては、各 BAC バージョンのヘルプまたはリリースノートを参照してください。

#### センターサーバー

- Reporting and Administration Console を含むすべての Web アプリケーションをホストします。
- アプリケーションに対するすべてのユーザー操作の処理を担当します。

#### コアサーバー

- データコレクタからのすべてのデータサンプルを処理します。
- 簡単なデータの変換と解析を行います。
- データストアへのデータの挿入処理を担当します。
- 他の BAC コンシューマーがデータをアクセスするパス上に関連データを発行します。

#### データ処理サーバー

- データの処理と集約
- Business Logic Engine の実行
- スケジュールされたタスクの実行を担当します。
- メモリーまたは CPU を多用するコンポーネントをホストします。
- Universal CMDB の制御

### BAC データコレクタ

BAC データコレクタは、インフラストラクチャ全体のさまざまな位置および外部の位置からパフォーマンスデータを収集し、それを中央レポジトリにフィードする処理を担当します。収集されたデータは、ビジネスアプリケーションおよび IT インフラストラクチャのパフォーマンスを監視および分析する目的で使用されます。エンタープライズネットワーク環境またはリモートの位置にあるマシンに次のデータコレクタをインストールします。

**Business Process Monitor (BPM)** トランザクションを実行し可用性と応答時間のデータを収集することにより、エンドユーザーの体験品質をエミュレートします。BPM では、グリーンスクリーン端末アプリケーションから、クライアント/サーバーアプリケーション、さらに最新の Web および携帯アプリケーションに至るまで、大半のエンドユーザーが接するアプリケーションの監視を導入後すぐにサポートします。BPM は、業界をリードする HP の Virtual User Generator テクノロジーに基づくもので、運用前テストの前後で繰り返し可能なスクリプトを容易に共有できます。

**Virtual User Generator (VuGen)** エンドユーザーの体験品質をエミュレートするカスタム記録を作成するために使用します。VuGen は、記録および再生の原則に従って、実際の環境の状況をモデル化およびエミュレートするために、BPM で使用可能なスクリプトを生成します。また、VuGen スクリプトも LoadRunner などその他のコンポーネントとともに使用できます。

**System Availability Monitoring SiteScope (SiS SAM)** Oracle、SAP、Windows、UNIX、Linux など、導入後すぐに使用できるアプリケーション/システムモニターによるエージェントレスの容易なシステム監視をサポートします。SiS SAM を使用して、Web サーバー、アプリケーションサーバー、データベースサーバー、ファイアウォールサーバーを含む広範なバックエンドインフラストラクチャコンポーネントに関する重要なパフォーマンスの測定値を収集します。

**Real User Monitor** リアルタイムで実際のユーザートラフィックを監視し、ネットワークおよびサーバーのパフォーマンスデータを収集することにより、ネットワーク/サーバーの視点から実際のユーザーの体験品質を測定します。

Client Monitor アプリケーションを使用する重要な作業員またはクライアントにより認識されるユーザーの体験品質を追跡し、「最後の 1 マイル」の可用性と応答時間のデータを収集します。

## 展開アーキテクチャ

適切な展開アーキテクチャを選択することは、BAC 環境の作成において重要な手順です。以下に、展開の構成を選択する場合の一般的な選択肢のリストを示します。どの展開タイプが自身のニーズに最も適合するかを決定するためのひな型としてこの表を使用できます。サイズに関するさらに詳細な資料については、BAC ヘルプを参照してください。このサイズに関する推奨事項は、BAC 6.X アーキテクチャに基づいています。ご使用のバージョンの詳細については、ヘルプで BAC の展開に関する推奨事項を参照してください。

セクション	1 サーバー	2 / 3 サーバー	5 サーバー
ダッシュボードユーザー数	3	20	30
ダッシュボード CI	10K	50K	215K
ダッシュボード KPI	20K	75K	300K
ビュー数	50	200	500
1 秒あたりのイベント数	35	200	400

ユーザー数 - 同時ログインユーザー数。

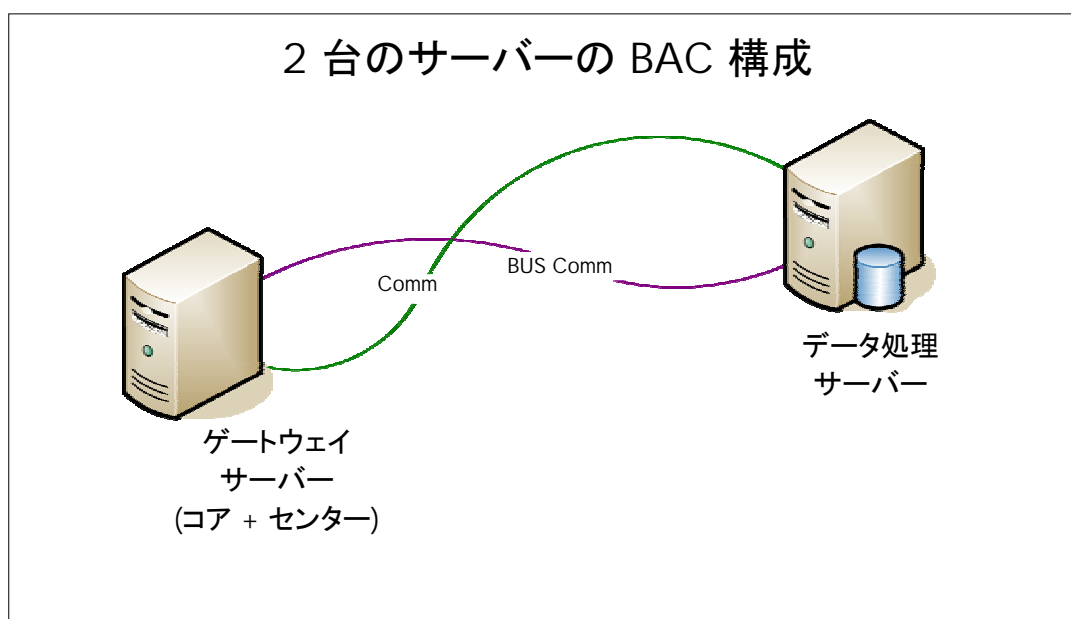
ビュー数 - BAC の導入後すぐに使用できるビューを含むアクティブなビューの数。

### 単一サーバーの BAC 展開

- 1 つのシステム上に、データコレクタ (SIS、BPM) 以外の全 BAC コンポーネントを配置します。
- 小規模の展開に適しています。
- 単一サーバーの展開を 2 台または 3 台のサーバーの展開に分割することは容易ではありません。

### 2 台のサーバーの展開

- 最も一般的な展開です。
- センター/コアサーバーを組み合わせます (ゲートウェイサーバー)。
- データ処理サーバー



### 3 台のサーバーの展開

- センターサーバー
- コアサーバー
- データ処理サーバー

### 5 台のサーバーの展開

- センターサーバー
- コアサーバー
- 3 台のデータ処理サーバー
- モデリングサーバー
- オンラインサーバー
- オフラインサーバー

\* 一般的なサーバーの構成:

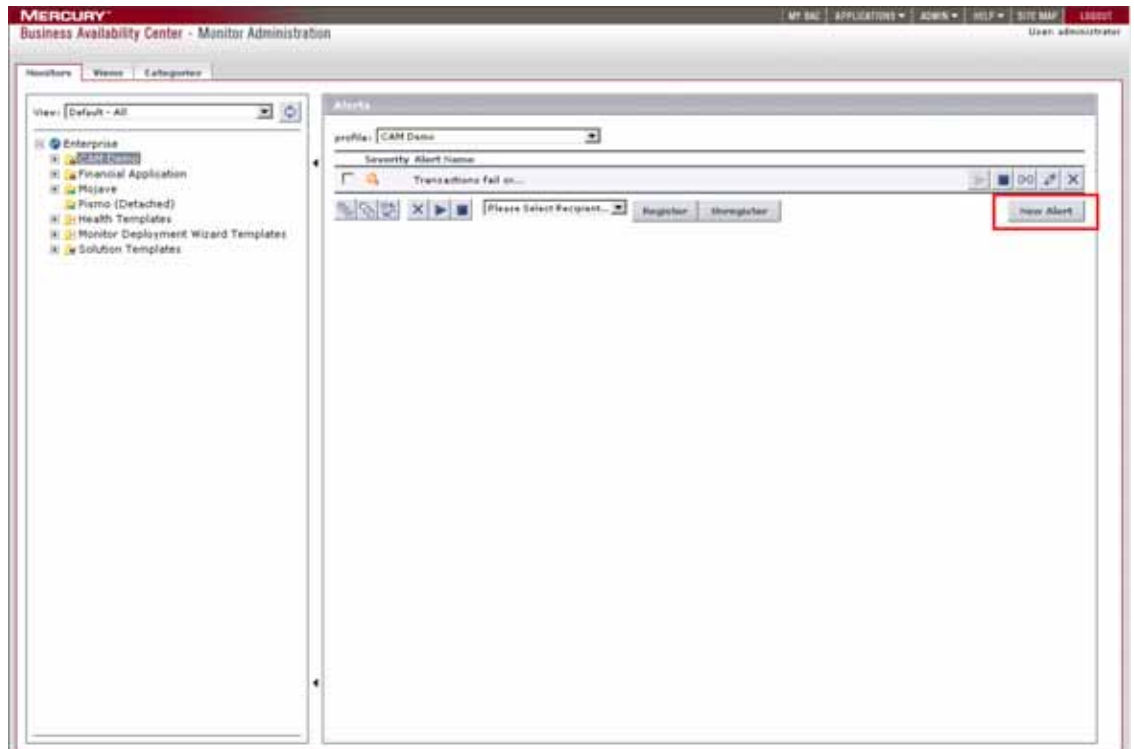
- デュアルプロセッサ 2.4 Ghz 以上 (HT またはデュアルコアを推奨)
- 4 GB のメモリー ( /3GB スイッチ)

\*すべての展開で、リモートデータベースが推奨されます。

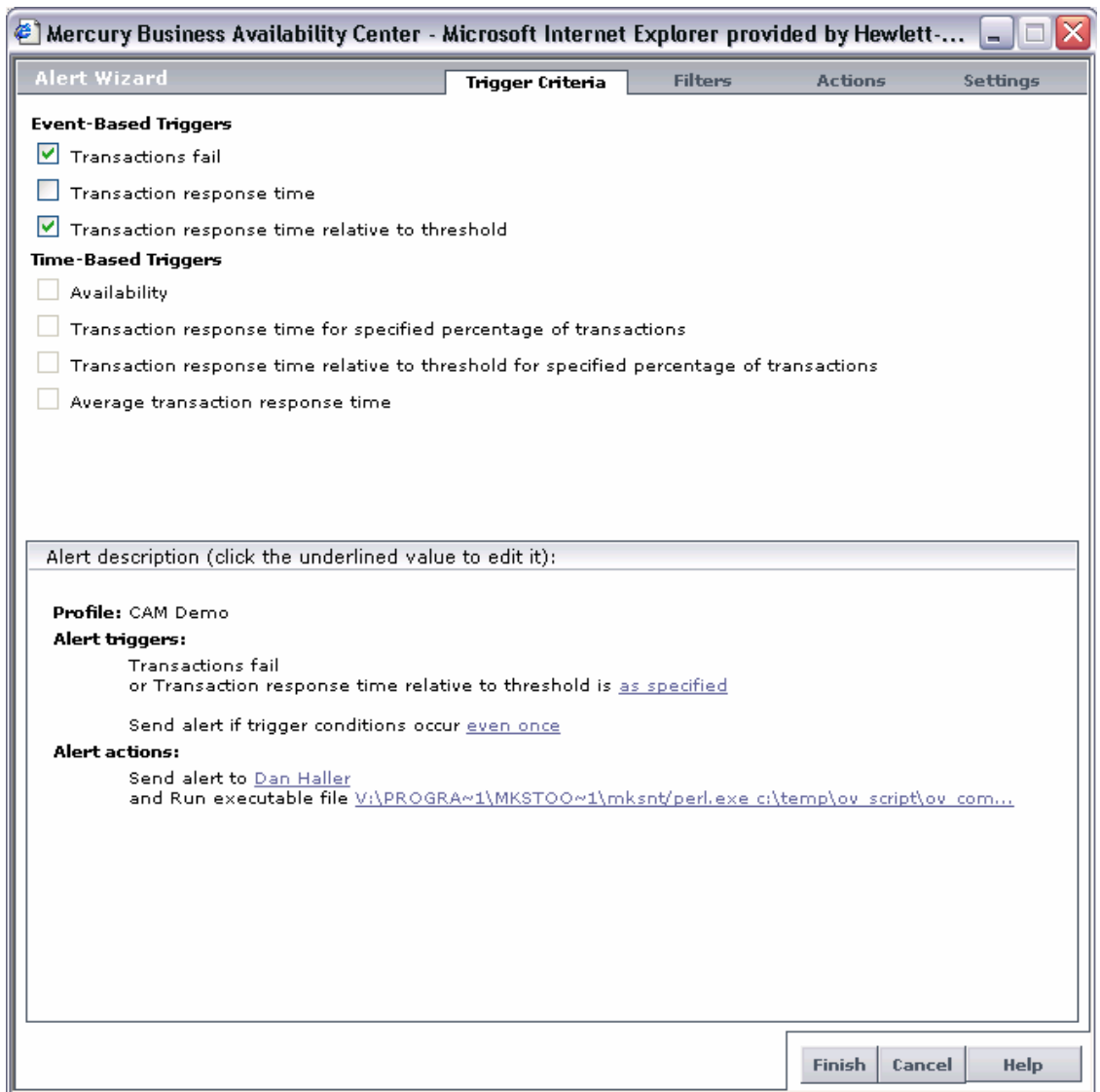
## 付録 B

### OVOW との BAC BPM 警告の統合例

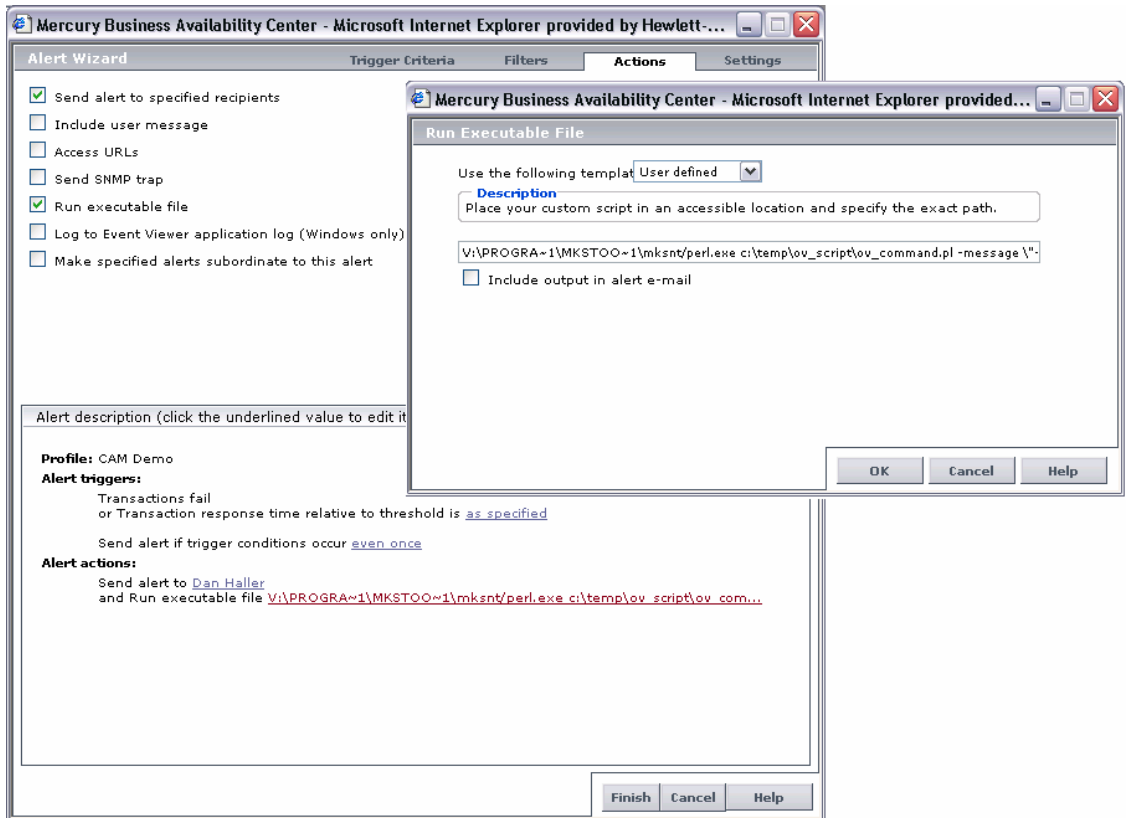
OVO との BAC BPM の統合は、[alarm Actions] プロパティの [Run Executable File] 警告オプションにより実行できます。いくつかの方法が使用可能ですが、この例では `opcmmsg` のフォーマットと呼び出しを行う perl スクリプト '`ov_command.pl`' を使用する方法を示します。



上記のスクリーンショットは、BAC 6.6 BPM の警告管理ページです。このページを開くには、BPM プロファイルを右クリックし、[Alerts Management] を選択します。新しい警告を追加するには、[Alarms Management] ページで [New Alert] をクリックし、[alarm configuration] ダイアログを開きます。



[Alert Wizard] ダイアログには、BPM プロファイルに関する警告を構成するために必要な情報設定が提示されます。上記の例のトリガーイベントは、「Transaction Failure」および「Transaction Response Time」です。したがってこの例では、各失敗および応答時間の失敗について警告が送信されます。多くの警告構成機能が使用可能ですが、この例ではそのうちの一部のみを選択しました。[Alarm Wizard] ダイアログから表示可能な警告に関するオンラインヘルプを参照してください。



### コマンド行文字列の例

```
C:\Progra~1\HPOpen~1\Instal~1\{790C06B4-844E-11D2-972B-080009EF8C2A}\bin\OpC\opcmsg.exe o=BPM a=BPM severity=CRITICAL msg_text="<ProfileName> with <txn_name> at <loc_name> running <script_name> reported <TriggerCause> with description <AlertDescription> <txn_err>. alarmid <AlarmID>"
```

上記のコマンド行は、しきい値の超過時に opcmsg.exe を呼び出すために BAC 警告エンジンで使用可能な変数 substitution を使用しています。この実行により作成される警告の重要度は Critical (危険域) です。オブジェクト、アプリケーション、および重要度のパラメータ、msg\_text パラメータをそれぞれの環境に最も適合する値に設定できます。

上記のコマンド行文字列では、BAC BPM 警告エンジンで使用可能な一部の変数文字列のみを使用しています。その他の変数文字列の詳細については [Run Executable File] 画面から [BAC BPM Alarm] ウィザードからオンラインヘルプを参照してください。



## 付録 C

### BPM または SiS への OVIS プローブのマッピング

以下の表に、対応する製品 (BPM、または SiS) に対する OVIS プローブのマッピングを示します。

電子メール	SiS	BPM
MS Exchange (MAPI)	✓	
IMAP4 (Internet Message Access)	✓	
Mail Roundtrip	✓	
POP3 (Post Office Protocol)	✓	
SMTP (Simple Mail Transfer)	✓	

Web	SiS	BPM
FTP (File Transfer)	✓	
HTTP (Web Servers) と HTTPS (Secure HTTP)	✓	
HTTP_TRANS (Multi-URL Web Transactions)		M
NNTP (News Service)	✓	
SOAP (Simple Object Access Protocol)	M	
STREAM_MEDIA (Real または Win)	M	

拡張性オプション	SiS	BPM
Script プローブ	M	
Probe Builder - Jscript	M	M
カスタムプローブ SDK - C/C++	M	M

基本サービス	SiS	BPM
DHCP (Dynamic Host Config.)	✓	
DNS (Name Resolution)	✓	
ICMP (Network Response Time)	✓	
LDAP (Lightw. Directory Access)	✓	
NTP (Network Time)		
ODBC (Open Database Connectivity)	✓	
TCP (ユーザー定義ポート)	✓	
TFTP (Trivial File Transfer)		M

- ✓ 自動変換
- M 手動変換
- M\* 手動変換および追加 LTU が必要
- \* Network Bandwidth モニターにより一部収集可能

リモート アクセスおよびその他	SiS	BPM
DIALUP (ダイヤル アップ)	M	
Radius (認証)	✓	
MMS (パートナー プローブ)		
SAP (基本トランザクション)	M*	M
SMS (Short Messaging Service)		
WAP (携帯端末向けデータ)	M	M
WMI System Collector	M	
Network Bandwidth	*	

お問い合わせはカスタマ インフォメーション センタへ

03-6416-6660 月～金9:00～19:00 土10:00～18:00 (日、祝祭日、年末年始および5/1を除く)

HP-UX 製品に関する情報は <http://www.hp.com/jp/hpux>

HP-UX に関する技術情報は <http://www.hp.com/jp/developer>

Linuxは、Linus Torvalds氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft、およびWindowsは、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

記載事項は2007年6月現在のものです。

本書に記載された内容は、予告なく変更されることがあります。

本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、

いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

本書は、『HP OpenView Internet Services OVIS Migration White Paper』(英語)をもとに加筆・修正して日本語で提供されるものです。

© Copyright 2007 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

日本ヒューレット・パッカード株式会社

〒102-0076 東京都千代田区五番町七番地

